

## 細街路の交差点における走行空間整備について ～人感センサーライトを用いた交差点内の注意喚起に関する社会実験について～

### 1 事業の目的と概要

本事業は細街路が多い本市の道路事情や、交差点での自転車事故が多発していることを背景に、自転車走行空間の向上につながる整備手法を考案して整備の推進を図るため、人感センサーライトを活用した交差点内の注意喚起に関する社会実験を実施しました。

人感センサーライトは市が朝日電器㈱と共同して制作した改良版を使用し、交差点の端部にライトを設置して、約半年間にわたり交差点を通行する自動車や自転車の注意率に関する調査及びアンケート調査を実施しました。(図1 参照)

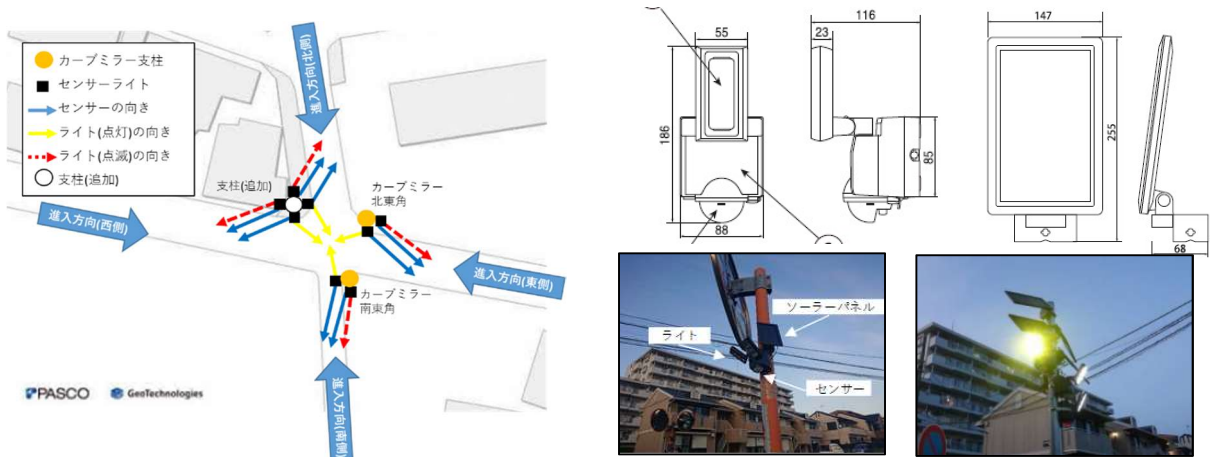


図1 調査概要図

### 2 主な結論

人感センサーライトによる交差点内の注意啓発を行ったところ、速度の遅い車両や、一時停止の道路標識や停止線がある道路方向で発現される効果は高く、一時停止する自転車や自動車が増加する傾向が見られました。(図2 参照) 一方、優先道路や速度が速い車両については効果が出にくいことが分かりました。

人感センサーライトの点灯パターンについて、電池容量や発電効率を考慮して効果的に注意啓発を行うためには、夜間に点滅させることが最も有効であることが分かりました。ライトの光量、角度、点滅間隔、また一部部材の耐久力の向上については、実用化に向けて引き続き検討する必要があります。

アンケート調査の結果、車両通行者(自転車・自動車)の53%が人感センサーライトの設置により交差点の通行に注意を払うようになり、歩行者の41%は交差点を通行する際に安心感が得られると回答しました。また、人感センサーライトによる交差点内の注意啓発が、事故抑制に繋がるかという問いに対しては、全体の63%が事故抑制につながるかと回答しました。



図2 自転車及び自動車の交差点進入時の注意率に関する調査結果について (交差点北側)